

大学院獣医学研究院 放射線実験施設 施設紹介

フロアマップ



施設紹介：管理区域

汚染検査室

この部屋は管理区域へ出入りする時に必ず通ります。入室時には備え付けの白衣に着替え、フィルムバッジやポケット線量計を身につけ、各種サーベイメーターを携行します。退出時は、この部屋で放射性同位元素による汚染の検査を行います。人体、作業衣、履き物、防護具などの表面の汚染を検査する測定器（ハンドフットクロスモニター、GMサーベイメーター等）が置かれています。また、手洗い所やシャワー室が備え付けられ万が一の時の表面汚染があった時に除染出来るシステムが完備されています。



ハンドフット
クロスモニター



各種携帯型サーベイメーター
とポケット線量計

RI測定環境放射能検査室

この部屋で各種放射線の測定を行います。液体シンチレーションカウンター、ガイガーカウンター、バイオイメージングアナライザー、ガンマーオートウェルなどが置かれています。



管理照射室

200kVの엑스線を発生出来る照射装置です
左：遮蔽版に囲まれた엑스線発生装置があり、その後ろの円筒形の物がコンデンサーです。
右：엑스線発生装置です。この中に엑스線管球があります。この装置の下にサンプルを置きます。



廃棄物保存庫

この部屋には実験で使用した「可燃性」「難燃性」「不燃性」のゴミをそれぞれ分けて専用のドラム缶に保管しておきます。ドラム缶の色は医療用で使われたRI廃棄物は青色ですが、獣医学部では法令上研究所扱いなので黄色です。ちなみに、「廃棄物保存庫」というのは法令上の用語ではなく、建物の部屋につけられた名前です。RI廃棄物が発生し、保管廃棄（ずーとRI施設に置いておくこと）か廃棄業者（現在は日本アイソトープ協会だけです）への引渡をするまでの間保管しておく部屋のことを言います。



RI排水処置室

この部屋には実験で使用した排水の全てが貯留されます。ここでRIの放射能が無くなるのを待ってから排水するための貯留槽、その排水を安全域までに薄めるための希釈槽、RI物質を沈殿させ建物の外へ出さない沈殿槽があります。カメラの関係でここでは貯留槽の写真を掲載します。



施設紹介：管理区域外

機械室

管理区域は外部環境への放射線漏洩を防ぐために特殊な構造をしています。放射線そのものの漏洩（遮蔽）だけでなく、排気や排水へ放射能物質を外に出さない構造をしています。そのため、機械室には特殊な装置が取り付けられています。



入退室管理扉

管理区域への入退室管理扉は「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」で定められた指定講習を受けた者（従事者と言います）に与えられる磁気カードにて開くことができます。また、この扉から奥は「管理区域」と言います。扉には黄色地で赤の看板が管理区域であることを示しています。この扉から管理区域に続く前部屋は「汚染検査室」といいます。左写真で緑地で白抜き十次の看板が汚染検査室であることを示しています。



教員研究室

この部屋は放射線学教室のゼミが開かれるところです。この部屋には大きな机が置かれているので研究についてディスカッションも活発に行われています。

